

# 銘柄米生産情報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町

J A会津よつば（あいづ地区）・福島県農業共済組合会津支所

全国農業協同組合連合会福島県本部・福島県会津農林事務所農業振興普及部

## 東北地方1か月予報 <仙台管区气象台 R6.8.8 発表>

【気温】東北地方	10	10	80
【降水量】東北地方	40	40	20
【日照時間】東北地方	20	30	50

凡例： ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い) 期間: 8/3~9/2

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

向こう1か月程度は気温の高い状態が続  
き、期間の前半は気温がかなり高くなる  
見込みです。天候は数日の周期で変わ  
りますが、平年に比べ晴れの日が多いで  
しょう。平均気温は高い確率80%です。  
降水量は平年並または少ない確率とも  
に40%です。

## 出穂の状況

- 出穂期は昨年と同様、もしくはやや早い状況です。  
平坦部ひとめぼれ：7月28日前後  
コシヒカリ：8月6日前後
- 標高の高い地域でも、出穂が早まっています。



## 高温障害対策

### 適切な水管理で1等米の生産を！

- 出穂期前後は水が必要な時期になるので、湛水しましょう（花水）。
- 花水の時期が終わったら、飽水管理を行い、夜間の稲体の温度が下がるように管理しましょう。出穂後20日間は、飽水管理を続けてください！
- 完全な落水は、出穂後30日以降にしましょう。

### 飽水管理

→ 浅く水を入れ、自然に足跡に水がたまる程度に  
水量が下がったら、また水を浅く入れる水管理方法。

- 刈取時期も早まる予想です。稲刈りの準備を遅れないようにしましょう。  
刈り遅れは、胴割粒の発生を増加させます！  
積算温度1000℃に到達する日  
平坦部ひとめぼれ：9/6 コシヒカリ：9/16




## 斑点米カメムシ類防除対策

今年も発生が多く、注意報が発令されています！  
防除の徹底をお願いします！

今年、斑点米カメムシ類の発生が多く見られます。特に、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソドリカスミカメ等のカスミカメムシ類の発生が多くなっています。特に割れ粃が発生すると被害を受けやすくなります。

- ・散布剤(粉剤、液剤)による防除は、乳熟期(出穂7～10日後)を基本とし、その後も発生がある場合は7日おきに追加防除を行ってください。
- ・水面施用剤(粒剤)は、穂揃い期～乳熟期(出穂5～10日後)に湛水状態で散布してください。
- ・稲が糊熟期となる8月下旬頃までは、畦畔の草刈りを控えるようにしてください。

表1 主要な斑点米カメムシ類の特徴と防除例

	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソドリカスミカメ	ホソハリカメムシ
			
	大きさ：5mm 程度	大きさ：6mm 程度	大きさ：10mm 程度
	薬剤名		備考
粒剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キラップ粒剤(収穫14日前まで)</li> <li>●スタークル粒剤(収穫7日前まで)</li> </ul>		ホソハリカメムシ等の大型のカメムシには効果が薄いことがある。
散布剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スタークル液剤10(収穫7日前まで)</li> <li>●スタークル粉剤DL(収穫7日前まで)</li> <li>●キラップ粉剤DL(収穫14日前まで)</li> </ul>		

## いもち病防除対策

- 葉いもちが確認されたら、早急に散布剤で防除を行ってください(表2)。
- 散布剤は、穂ばらみ末期と穂揃期(出穂3～5日後)の2回散布をして下さい。

表2 いもち病(穂いもち)の防除薬剤の例

薬剤名	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10aあたり使用量
ブラシン粉剤DL	収穫7日前まで	3～4 kg
フジワン乳剤	収穫14日前まで	1000倍、 60～150 L



〈令和6年度農薬危害防止運動展開中 6/10～9/10〉